

新書紹介

アーバン・デザインの手法

原題・公共政策としてのアーバン・デザイン
ジョナサン・バーネット著 六鹿正治訳
鹿島出版会 A5版 二二二頁 二八〇〇円

この本は、リンゼー市長政権下のニューヨーク市が行った、アーバン・デザイン政策の記録である。ジョン・リンゼーが、一九六六年にニューヨーク市の市長になったとき、彼はデザイナーがニューヨーク市の将来に関わる重要な決定に参加できるようなプロセスを制定した。著者ジョナサン・バーネットら四人(建築家)は、その際に、市当局内、都市計画委員会内に設置されたアーバン・デザイングループの中心スタッフとして、市政に参加している。

著者たちの最初の仕事になったのは、タイムズ・スクウェアの西側の区画に立つ、民間のオ

との良い関係を持つ小劇場を含むビルへの計画変更を要求する。当然のことながら、ビルのディベロッパーは、この要求を無茶なものと考え、無視しようとするが、市長を中心に全市民的なバック・アップを得て、著者達の要求をディベロッパーが受け入れるところまで行き着く。

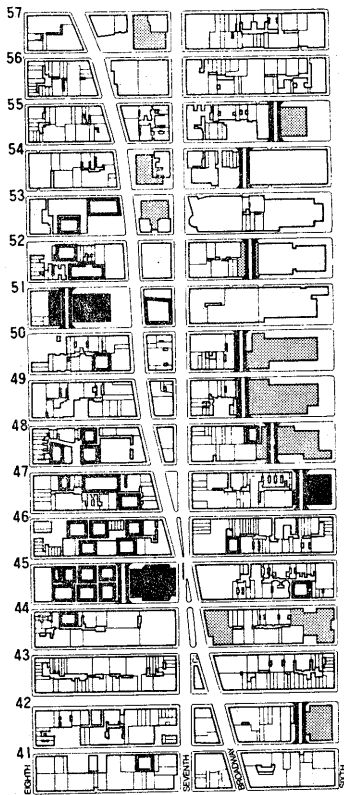
このように、著者らの行動は、単にすばらしい未来図を描いて、社会に提案するというこれまでの、建築家、都市計画家とは全く異なり、実際の都市は多くの、社会、経済的要因によって動いており、これらと無関係に提案してみても、結局、具体的に都市は少しも良くなるという批判に基づいており、これまでの建築家等の、政治で

手を汚さないという姿勢と異なり、行政の一部として、もっと実際の、具体的、柔軟かつ戦闘的方法であり、このようなアプローチのしかたが、より確実な成果へつながることを示している。そういった意味で、日本語版のタイトル「アーバン・デザインの手法」という、非常に技術的な内容を紹介したものではなく、原題で示される、都市行政の記録的文献である。こういう点から、都市行政に積極的に取り組んでいる横浜市の職員として、一読に値すると思われる。

横浜市においても、これまでの自治体にはないような多面的、積極的な都市計画への取り組み(六大事業、宅地開発コント

ール、環境設計制度等)によって、公的利益を守り、かつ、より快適な都市にする努力が行われている。アーバン・デザイン面においても、山下公園前の街区、馬車道地区等の形態、用途指導その他において、若干ながら成果をあげつつある。市の行政の権限は異なるが、ニューヨーク市での、もちろる限度一杯に使って取り組む姿勢は、横浜市職員として共鳴する。

都市計画の方向に技術的にも多くのヒントを与えてくれ、又都市計画に関するニューヨーク市の組織、制度をかいま見る本としても役立つ。
〈企画調整局企画課 国吉直行〉



■ 新しい開発 ■ 劇場付の新しい開発
□ 既存の劇場 □ ブロック半ばの歩行者部
劇場地区。既存の劇場と共に、新しいインセンティブ・ゾーニング立法のもとにすでに建設された四つの劇場を含む三つの建物が示されている。

(図は同書から転載)